

# 八王子市青少年健全育成基本方針 家庭・学校・地域の連携のもと 健全な「はちおうじっ子」を育てよう



次代を担う青少年が意欲や自信を持って健やかに成長し、自立した心豊かな社会人になることは、市民すべての願いです。本市の青少年健全育成の目指すところは、青少年が様々な人とかかわりながら、豊かな人間性や、判断力、健全な心と体を獲得し、自ら力強く生きるとともに、新たな時代を拓く力をつけていくことにあります。そのためには、基礎となる家庭での教育の充実と、それを支える地域ぐるみでのつながりを育む環境づくりが必要です。八王子に暮らす大人一人ひとりが青少年を育成する担い手です。子どもたちのために、それぞれが持ちうる力によって、心を通わせ理解しあえる豊かな地域社会を構築していくことが大切です。

八王子市では青少年の健全育成を推進していくために、家庭・学校・地域、そして、市及び関係行政機関の役割とそれぞれの責任ある行動の基本となる方針を掲げました。ともに手を携え、これらの方針を実現していくことで、意欲あふれる健やかな「はちおうじっ子」を育成していきます。

## 家庭の役割 子どもの健やかな成長の基本

- 親から子へ伝えよう、思いやり・感謝の気持ちの大切さ
- おはようから始まる基本的な生活習慣と家族で作ろう、みんなのきまり
- 地域に目を向け、親子で一緒にやってみよう

## 学校の役割 家庭・地域とともに、生きる力を育む教育

- 学ぶ意欲や豊かな心を育む教育
- 健やかな心と体を育む体験活動の充実
- 地域とつながる学校づくり

## 地域の役割 一人ひとりの力を持ちより、高める地域の子育て力

- 地域の大人が手本となって続けていこう、あいさつ・声かけ
- 青少年が活躍できる地域づくり
- 人とひととのつながりで広げていこう、地域の安全・安心

## 市・関係行政機関の役割 連携とサポート体制の充実

- 家庭・地域・学校をつなぐコーディネート機能の充実
- 青少年健全育成活動の支援
- 人材育成支援と情報提供の充実

### 平成 28 年度 八王子市青少年健全育成推進区域

八王子市青少年健全育成推進区域は、全市の青少年健全育成のモデル地区です。平成 28 年度は長房地区に決定しました。推進区域では、「あいさつ運動」や「子どもの意見発表会」などを実施し、地域住民への健全育成の啓発等を積極的に進めていきます。

調査・審議 八王子市青少年問題協議会  
発行 八王子市  
事務局 八王子市子ども家庭部児童青少年課  
(Tel 042-620-7435 Fax 042-627-7776)

## みんなでつないでいこう 思いやりの心

「あの子の言葉づかい気になるよね」、「自慢話が多いような気がしない？」軽い気持ちで発した言葉でもその受け止め方は人それぞれです。特にネット上では、書きこまれた文字のやりとりでささいな誤解やすれ違いが生じやすく、急速にいじめに発展していきます。

また、たった一言のインターネットへの書き込みが瞬く間に広まり、何十件もの誹謗中傷を招くこともあります。書かれた子がこれらを知った時、「これを書いたのは、もしかして〇〇君か〇〇さんか…」と疑いや不安が心に広がっていきます。さらに、大人の目の届かないネットの世界では削除しなくても出来ないうちに、「写真や個人情報の流出」により見知らぬ人からの嫌がらせなど新たな問題が次々と子どもたちを襲っています。

子どもたちは夜も眠れず、恐怖と無力感で心は押しつぶされそうになりながらも、「これ以上、人には知られたくない」との思いから親にさえ打ち明けられず心を閉ざしていきます。今の時代を生きる子どもたちにとって「SOSの発信」はとても大きな「勇気」を必要とします。

八王子市では子どもたちが「いじめ」を考え、立ち向かっていく「勇気」や「知恵」を育むために、平成 26 年度から大人が子どもへ「思いやりの心」の大切さをしっかり伝えていく取組をすすめています。子どもたちが夢や希望を抱き、意欲をもって健やかに成長していけるよう、思いやりの心の輪をみんなでつなぎ、広げていきましょう。



## つながり、ひろがる 思いやりの心

松木小学校では、開校 20 周年を機に学校・保護者・地域の人が、「松木の子どもたちがどのように育ってほしいか。」をテーマに検討を重ね「ほっぺを上げて、にっこりあいさつしよう。」「相手の気持ちになって考えよう。」など 10 項目からなる「こんな子っていいな まつぎの子」を策定しました。

この 10 項目には子どもたちの健やかな成長を願い、「地域ぐるみで育てていこう」という多くの人々の思いが込められています。その思いが今、登下校時の子どもたちへの積極的な声かけとなり、多くの子どもたちが元気よくあいさつを交わし、地域では笑顔が広がっています。

また、第五中学校では、生徒会が主体となり「いじめ撲滅宣言」を 3 年にわたり実施しています。全クラスで、自分が体験した嫌な思いやいじめについての考えなどを話し合い、全校集会において各クラスの宣言文を発表します。皆でまとめた宣言は、一人ひとりの心に根付き、生徒自らが学校生活の中で、互いに確認しながら相手を思いやる行動につながっています。

子どもたちの心の中には「いじめをしない、させない、見過ごさない」という気持ちが着実に育まれ、その輪は広がっています。



## 1. ほめよう、我が子の日々の小さな積み重ね



心に抱えている悩みや辛さを人に打ち明けることは大人であっても難しいものです。子どもであればなおさらです。「親を心配させたくない」、「打ち明けたら、しかられるのではないか」、「どこから話したらいいのかわからない…」と子どもは不安な気持ちでいっぱいになってしまいます。さらに、経験の少ない子どもたちは大人ほど一人でこらえ、解決していく方法も持ち合わせていません。

インターネットなどの普及により急速にいじめが深刻化している今、「つらい、助けて」、「やめなよ」と言葉を発する勇氣を持てるよう、子どもたちの自信を育むことはますます重要となっています。

ここで一つの実話を紹介します。マラソン大会で毎年最下位だった子が、ある年は親と一緒に練習をしました。結果は、下から二番目という成績でした。しかし、その子は、親に頑張ってきたことをほめられ、「やる気」と「自信」を持つとともに自分を応援してくれた親への感謝の気持ちが沸いたそうです。

このように頑張りをほめることで子どもは自信を育んでいきます。皆さんは日々の忙しさや照れなどから、我が子への小さな成長の喜びを伝えそびれていませんか。ふと気付いた子どもの頑張りや家族・友達への思いやり、何でも構いません。食事をしている時や、買い物へ一緒に出掛けた時など話しやすいタイミングで言葉をかけてあげてください。たった一言でも、親が子どもを思いやる気持ちは伝わります。そうした日々の小さな積み重ねが自信の種となり、子どものなかで成長して大きな「勇氣」となって育まれていくことでしょう。



### ○ 今日家族そろっていただきます！ ○

最近、家族そろってご飯を食べたのはいつですか。「美味しいね」と団らんしている家庭、思春期の子どもが無言で食べている家庭、ちょっとしたことでケンカが始まる家庭—思い浮かぶ様子は人によって様々でしょう。一緒に囲んだ食事やその時々のお話の積み重ねは温かい記憶として残り、家族のつながりを深めてくれます。家族そろって「いただきます」とご飯を食べる日をつくってみませんか。



### ～平成27年度 振り返りチェック～



- 子どもの好きなものや憧れている人を知っていますか。
- 子どもの「やってみたい」という気持ちを後押ししてあげたことはありますか。
- 失敗を打ち明けた子どもを叱らずに、受け入れていますか。
- 子どもがお手伝いをしてくれたら「ありがとう」、「助かるよ」など気持ちを伝えてありますか。
- 直接話し合うことの大切さを子どもに伝えてありますか。
- 子どものスマートフォンなどにどんなアプリが入っているか知っていますか。
- 近所の子どもたちに「おはよう」「いってらっしゃい」など挨拶していますか。
- 子どもの長所を3つ言えますか。それはどんなところですか。

お母さん、お父さん  
チェックしてみましょう！

私のお父さん、お母さんは  
いくつ当てはまるかな？



## 2. 一緒に考えよう！本当に載せていいのかな？ その言葉・その写真

「こんな大騒ぎになると思わなかった…」イライラした気持ちや暇つぶしでつい書きこんでしまった一言が招いてしまった結果に、自分自身の心も深く傷つきます。インターネット上では、相手に見られていないという錯覚により「これ以上はダメだ」との思いがあっても書き込みをエスカレートさせやすく、子どもたちの心の中にある「寂しさ」や「孤独感」はその人を前にしては言えないような「攻撃的な言葉」に姿を変えて広がっていきます。

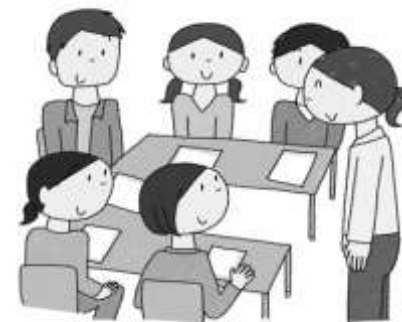


### ○ SNS とは… ○

例えば、お気に入りの写真にメッセージをつけて投稿できる「Facebook」や短いメッセージのやりとりをグループで楽しむ「LINE」などのことをいいます。共通の趣味を持った人たちと情報を交換でき、新たな友達との出会いなど交流が広がる一方で「誹謗中傷」「個人情報の流出」「ネット依存」といった問題もあります。

SNS は伝えたい気持ちを瞬時に伝えられる便利さがある一方で、いくら書き込みを続けても「寂しさ」などの心の穴を埋めることは出来ず、一層深くしてしまう危険性も持ち合わせています。

こうした時にひとまず SNS から離れて、考え込みすぎないように体でも動かしてみようといった経験に基づく「知恵」が大人にはあります。SNS が子どもたちの生活の一部となりつつある今、子どもたちと一緒に考える機会をつくり、こうした知恵を伝えていくことがより一層大切となっています。



そのためには、まず大人もネットの危険性などについて学びましょう。時には子どもたちに教えてもらい、知ろうとすることも大切です。一緒に話しながら子どもたちの SNS などの使用方法を把握し、アドバイスしながら子どもたちとスマートフォンなどの使用のルールを作りましょう。

また、子ども同士で話し合い、ともに活動する機会を作ることも大切です。様々な活動の中で「ここでこの言葉を書いたら相手はどう思うだろう？」と相手の表情やしぐさ、声のトーンを肌身で感じさせながら、子どもたちの想像力を引き出し「思いやりの心」の大切さを教えていきましょう。

## 3. 親子で参加、見つけよう！ 地域のつながり・家族の絆

地域は子どもの大切な遊びの場であり、学びの場でもあります。また、親にとっては、子育ての相談に乗り、手を貸してくれる人がいる拠り所でもあります。

八王子では、青少年対策地区委員会や子ども会などの子どもたちの健やかな成長を願う市民団体が夏祭りや餅つきなどの季節行事やクリーン活動など地域・世代をつなぐ様々な行事を広く行っています。

地域行事に目を向け、親子で一緒に参加してみませんか。

思い出してみてください。最初はなかなか一歩が踏み出せなかったことも、「やってみたら楽しかった！さほど大変ではなかった」と新たな発見を得られた経験は誰しもあるのではないのでしょうか。

また、子どもは誰よりも親の姿を見ています。親自らが地域に目を向け、あいさつをする姿や地域の大人や子どもたちと活動する姿に、子どもは誇らしさや学びを得ることでしょう。親にとっても、我が子のはつらつと活動する姿を目の当たりにすることで、改めて子どもの成長を実感し、親子の絆が育まれていくことでしょう。

住みなれた地域で心通う様々な体験を通じて、大人が手本となりながら、子どもたちが本来もつ「好奇心」や「意欲」を育み、子どもたちの健やかな成長を家庭・学校・地域で支えていきましょう。

